

## 1. 海洋環境保全推進月間（6月）報告



海岸の漂着ゴミ調査（青森海上保安部）



園児との海浜清掃（釧路航空基地）



海岸の漂着ゴミ調査（串木野海上保安部）



海浜清掃（徳島海上保安部）

海上保安庁では6月1日から30日までの1ヶ月間を「海洋環境保全推進月間」として、「未来に残そう青い海」をスローガンに全国各地で海洋環境保全指導・啓発活動を実施しました。「油類による汚染対策」、「廃棄物の不法投棄対策」を重点項目として海浜清掃や、海岸の漂着ゴミ調査を実施しました。

## 2. 現役最高齢の潜水士誕生



巡視船「とさ」の潜水士(向かって右から3番目が西田主任機関士)



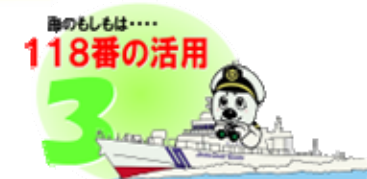
インタビューを受ける西田主任機関士

平成25年5月23日（木）、高知海上保安部巡視船「とさ」に現役最高齢の51歳の潜水士が誕生しました。同日発令を受けたのは、「とさ」の西田昭一主任機関士。19年間潜水士として活躍後、13年間陸上で勤務していましたが、東日本大震災で活躍する潜水士の姿を見て自分も1人でも多くの命を救いたいと、潜水士復帰を強く希望するとともに、体力練成に励み、この度、見事潜水士に復帰しました。

○かいほニュースは海上保安庁ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kaihonews/index.html>  
海上保安庁 〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3  
03-3591-6361(代表)  
(編集・企画)海上保安庁総務部政務課 政策評価広報室

～自己救命策 3つの基本～



### 3. 福岡航空基地機動救難士 出動1000件



### 4. 第3回アジア海上保安初級幹部研修開講



平成25年6月15日(土)、福岡航空基地機動救難士の出動が1000件に達しました。

福岡航空基地機動救難士は、平成14年10月1日に4名体制で発足しました。その後の活躍により、同制度の有効性が認められ、順次体制強化が進み、現在では福岡航空基地を含む全国8箇所航空基地等に9名ずつ配置された機動救難士が、迅速な救助活動を展開しています。

平成25年5月22日(水)、アジア海域の安全確保、環境保全のための海上保安能力向上プログラムである「第3回アジア海上保安初級幹部研修」が開講しました。今年度は、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムからそれぞれ1名の研修生のほか、海上保安庁から2名が参加し、平成26年2月24日までの研修や見学を通じて、知識の向上、相互の理解と関係の構築が図られます。

○かいほニュースは海上保安庁ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kaihonews/index.html>  
海上保安庁 〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3  
03-3591-6361(代表)

(編集・企画)海上保安庁総務部政務課 政策評価広報室

海の「もしも」は118番

